

ロシアの攻撃は、ウクライナの、米の運営する生物研究所を狙ってか？

<https://www.infowars.com/posts/russian-strikes-targeting-us-run-bio-labs-in-ukraine/>

Adan Salazar

February 24, 2022

⇒何年もの間、ロシアは、アメリカが化学・生物兵器を開発できるバイオ研究所を、ウクライナで運営しているとして非難してきた。

⇒アメリカのバイオ研究所は、最近、ロシアによって攻撃された多くの都市で、活動していると信じられている。

ロシアの「特別軍事作戦」は、実は、ウクライナのバイオ研究所を狙った、煙幕なのだろうか？

社会メディアの憶測では、ロシアの、ウクライナ軍事施設への攻撃には、アメリカのこの地域でのバイオ研究所も含まれているという。ロシア政府は、何年も前から、彼らの国境近くで、アメリカがバイオ兵器を開発していると非難している。

この隠れた動機説は、木曜日、ツイッター・ユーザーの@WarClandestineによって唱えられたものだが、そのアカウントは、その後まもなく閉止された。幸運にも、彼のスレッドは、アカウントが禁止される前に、アーカイブされていた。

明かに、いくつかのアメリカのバイオ研究所が存在する。それは米務省の Biological Threat Reduction Project (生物学的脅威削減プログラム) の管轄するもので、アメリカが他の国のパートナーと共に、「世界の最も危険な伝染病の流行(故意、偶然、自然の)の脅威を抑止するためのもの」だという。

この「プログラム」がウクライナで優先されているのは、安全を図るべき病原体や毒物に対する強化や保障のためで、ウクライナで安全性の脅威が起こる前に、危険な病原体によって起こる病気の発生を、発見し報告するためである」と、ウクライナ米大使館の ウェブサイト は言っている。

このプログラムはまた、2019年、キエフとオデッサの、2つのバイオ研究所の創設につながった。これらは最近、ロシアによって攻撃された地域である。

オンラインで出回っている地図によれば、アメリカの支援するバイオ研究所は、この他に、Vinnystia、Uzhgorod、Lviv、Kherson、Tenopil や、クリミア、ルガンスクにも見出される。

もう一つの地図は、最近ロシアによって攻撃された地域を示すようで、その多くは、アメリカのバイオ研究所があると思われる都市である。

一方、ロシアは長年にわたって、アメリカが彼らの境界に沿って、生物兵器を開発しているという疑念を証明してきた。これについて、ロシア連合の Nikolai Patrushev 安保理長官が、昨年、これらの研究所で、危険な病原体が、軍事または政治的な目的に用いられている、明かな徴候があったと主張している。

ロシアが、アメリカは、ジョージアで秘密のバイオ兵器を扱っていると主張

Vladimir Isachenkov, The Associated Press

「注意を払ってもらいたいことは、世界で今、ますます多くの新しい生物研究所が、アメリカのコントロールの下で、飛躍的に勢いを得ていることだ。それだけでなく、それは**不思議な偶然の一致**で——主としてロシアと中国の国境なのだ」と、パトルーシェフは昨年7月に話し、これらの施設の壁の中で、何か行われているかわからないのだと言った。

「聞かされている話では、平和な衛生管理ステーションが、我々の国境近くで作業しているのだと言うが、ある理由で、それらはメリーランドのフォート・デトリックに似ているのだ。これはアメリカ人が、何十年前前から、軍事生物学の分野で仕事をしている場所だ。ところで、注目すべきは、これらの地域にはあまり見ない種類の病気が現れており、周辺の領域で記録されている事実だ」と、パトルーシェフは言った。

ではアメリカがこのラボで、生物兵器を開発していると思うか、と訊ねられ、パトルーシェフは「我々は、そうと信ずべき十分な理由をもっている」と答えた。

「ハーグの〈化学兵器禁止条約〉(OPCW)の本部では、アメリカ人とその盟友が、また一つの反ロシア化学調書を提出しない日は、一日とてないのだ。」

去年の10月には、中国とロシアもまた共同で、アメリカが生物兵器を開発している可能性を、国連に調査してほしいと要求し、声明を発表して――「二重に使うことの可能な科学技術分野の、長足の進歩のために、生物が兵器として使われるリスクが増大しています」と書いた。

「このコンテキストでは、中国とロシアが、アメリカとその同盟国の海外軍事バイオ活動を指摘し、生物兵器禁止令に関して、国際共同体内部に、由々しい懸念と問題を作り出していると言っています・・・」と共同声明は言った。

「両側とも、そのような活動はロシアと中国の、国家安全保障の深刻なリスクとなり、関連する領域の安全にも危害を与えていると考えています。」

.....

@WarClandestineによれば、プーチンの「特別軍事作戦」という意味の広い言葉や、ウクライナの脱軍国主義化、「脱ナチ化」の誓いといった言葉は、アメリカのバイオ研究所を取り除くという真の意図を、故意にぼやかす曖昧なものになっているという。

【訳者 Greatchain 注】

ウクライナの破壊や殺害の様子が写され、プーチンへの非難と憎悪が高まる間にも、この記事によってある程度の真相が、絞られてきたように思う。ここに言われていることは、もちろん推測にすぎないが、プーチンがウクライナ侵攻後に、最初に破壊したのは、ウクライナの広い範囲の要所に大量に存在する、化学兵器・生物兵器の「研究所」だということ、また「不思議にも中国とロシアの国境」に集中し、「普通には見られない生物」が存在する研究所だった、と想像できる。新聞でも、爆撃が広い範囲に及んでいると言っているから、なおさらそれが確からしくなる。

もしそうなら、これは人道的なものであり、プーチンに感謝しなければならない。そもそも、これだけ多くの人に非難されながら、ただ領土拡張や強欲のために、破壊や殺戮をする者はいない。(彼の繰り返す)やむを得ない事情が、そこにあると考えねばならない。バイデンやその勢力と比較することはできない。彼らは人民を敵に回して、自分たちだけが生き延びようとしている。プーチンはもし万一、万策尽きれば、祖国や人民と心中する覚悟ができています。バイデンはサタン信者だが、プーチンは神を信じている。

そして彼は、自分はサタンを滅ぼす使命を与られていると考えている。サタンを滅ぼすまでは死ねないと思っている。これからが、自分の戦いが本格的に始まる時だと思っている。

私は、彼が戦って勝つところを見届けてから死にたいと思う。そしてそれはそう遠くはないだろう。中間選挙までには、プーチンの盟友トランプを軸として、内面的勢力地図は大きく変わるだろう。今、テレビや新聞に写っている地図は、外側の皮だけの写真である。皮だけで生きている者は、皮だけが真実だと思っている。そんな人間が、「断固許すことができない」などと言ってみても始まらない。やがて思い知る時が来るだろう。